

# Endeavor

SV110h

ユーザーズマニュアル

Windows Home Server

# 目次

## はじめに

マニュアル中の表記 .....	4
-----------------	---

## 使い始めるまでの準備

ご使用前に .....	8
ご使用前の確認事項 .....	8
各部の名称と働き .....	9
本体前面 .....	9
本体背面 .....	10
コンピュータの設置 .....	11

## システムの拡張

拡張できる装置 .....	22
作業時の注意 .....	23
本体カバーの脱着 .....	24
本体カバーの取り外し・取り付け .....	24
メモリの装着 .....	26
メモリの仕様 .....	26
メモリの交換 .....	27
メモリの交換後の作業 .....	30

## BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に .....	32
BIOS Setupユーティリティの操作 .....	33
BIOS Setupユーティリティの起動 .....	33
BIOS Setupユーティリティの操作 .....	34
BIOS Setupユーティリティの終了 .....	37
設定値を元に戻す .....	38
パスワードを設定する .....	39
HDDアクセス制限 .....	42
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する ...	43
BIOS Setupユーティリティの設定項目 .....	44
Mainメニュー画面 .....	44
Advancedメニュー画面 .....	46
Power メニュー画面 .....	47
Bootメニュー画面 .....	49
Exitメニュー画面 .....	51
BIOSの設定値 .....	52

## 付録

お手入れ .....	56
本機のお手入れ .....	56
リチウム電池の交換 .....	57
CMOS RAMの初期化 .....	60
警告メッセージが表示されたら .....	62
機能仕様一覧 .....	63

# はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

# マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

## 安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 一般情報に関する記号



制限事項です。  
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。  
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。  
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。



参照先を示します。

**1 2**

操作手順です。  
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

□ で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  
◀ はEnterキーを表します。また、N は  $\boxed{N}$  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。  
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

## 名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

## HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1GB（ギガバイト）=1000MB として記載しています。

## メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）=1024MB として記載しています。



# 使い始めるまでの準備

各部の名称と働きや本機の設置方法について説明します。

# ご使用前に

## ▶ご使用前の確認事項

### 貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- 製造銘板

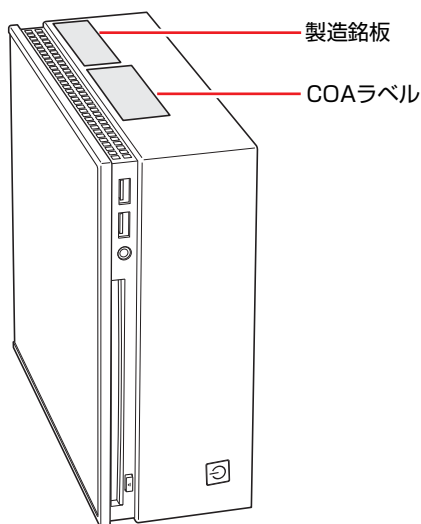
製造銘板には、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製造銘板に記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



### サポート・サービスのご案内

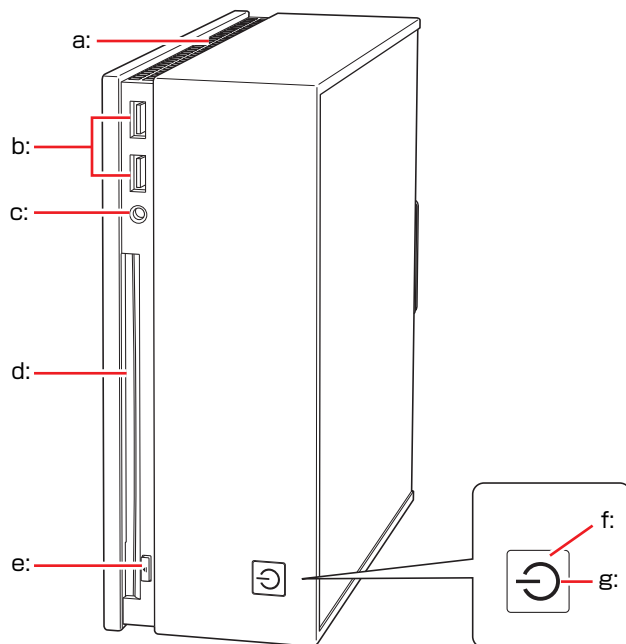
『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。



# 各部の名称と働き

## ▶ 本体前面



**a: 通風孔**

本機の内部で発生する熱を逃がします。反対側の面にもあります。

**b: USBコネクタ**

USB対応の機器を接続します。

**c: ヘッドフォン出力コネクタ**

ヘッドフォンと接続して音声を出力します。

**d: 光ディスクドライブ (オプション)**

光ディスクメディアの読み込みを行います。

**e: ドライブイジェクトボタン**

光ディスクメディアの出し入れを行います。

**f: 電源スイッチ**

本機の電源の入切を行います。

**g: 電源ランプ/アクセスランプ**

電源状態やドライブへのアクセスの状態を示します。

青色点灯: 通常

オレンジ色点灯: スタンバイ

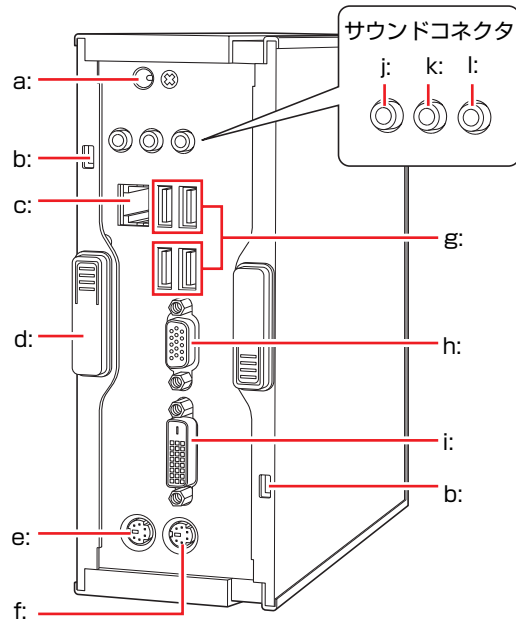
紫色点灯: HDDや光ディスクドライブへのアクセス中











消灯: 電源切断時または休止状態



アクセスランプが紫色に点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

## ▶ 本体背面

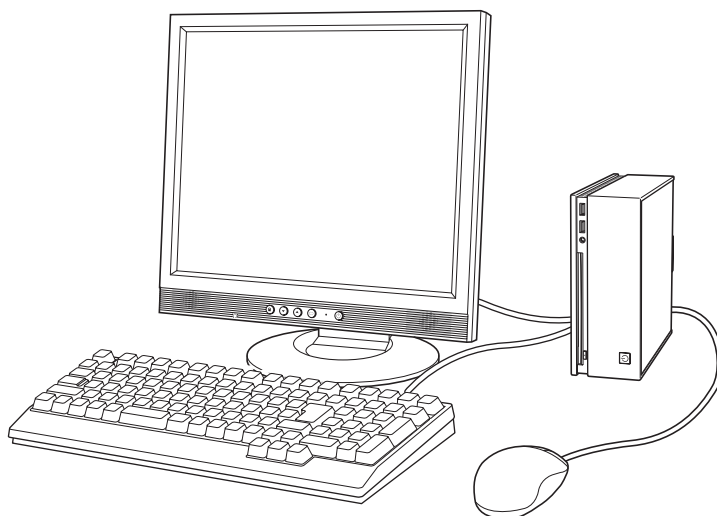


- a: ACアダプタコネクタ  AC IN  
 付属のACアダプタを接続します。
- b: セキュリティロックスロット  
 市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。
- c: LANコネクタ  品  
 LANケーブルを接続します。
- d: ラッチ  
 本体カバーを固定します。
- e: マウスコネクタ (PS/2)   
 PS/2対応のマウスを接続します。
- f: キーボードコネクタ (PS/2)   
 キーボードを接続します。
- g: USBコネクタ   
 USB対応の機器を接続します。
- h: VGAコネクタ   
 アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。
- i: DVI-Dコネクタ  LCD  
 デジタル方式のディスプレイとDVI-D（デジタル）ケーブルで接続します。  
 DVI-I（アナログ・デジタル両用）ケーブルは接続できません。
- j: ライン入力コネクタ   
 オーディオ機器と接続して音声を入力します。
- k: ライン出力コネクタ   
 アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。
- l: マイク入力コネクタ   
 マイクと接続して音声を入力します。

# コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。



## 設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
  - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
  - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
  - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、『安全にお使いいただくために』（別冊）に記載の注意事項を守って設置場所を決めてください。

## 各種コード（ケーブル）接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- 付属のACアダプタを、分解・改造しないでください。  
また、本機には、指定以外のACアダプタを使用しないでください。  
感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。  
当社指定以外のACアダプタまたは分解・改造したACアダプタ（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしてしないでください。  
配線を誤ると、火災の危険があります。
- 付属のACアダプタは、本機以外には使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタを使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。  
火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接接触しないでください。  
低温火傷の原因となります。

## 設置する

### 1 設置準備を行います。

(1) 縦置きにするか横置きにするかを決め、底面を確認します。

<縦置きにする場合>

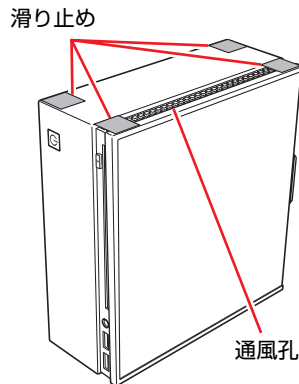
通風孔のある面のどちらかを底面にしてください。前面、背面を底面にしないでください。

<横置きにする場合>

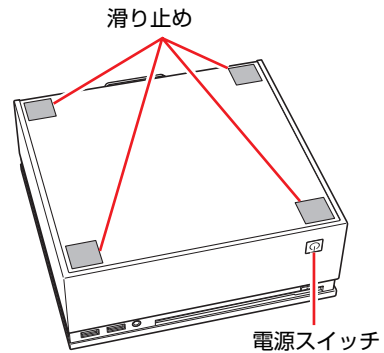
電源スイッチに近いほうの面を底面にしてください。

(2) 必要に応じて滑り止めを貼ります。

電源ボタンを押した場合に本機が動くようなときは、底面になる部分に添付の滑り止めを貼り付けます。

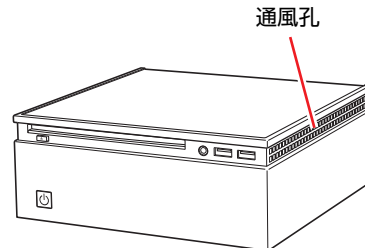
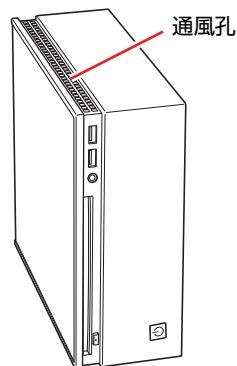


<縦置きにする場合>



<横置きにする場合>

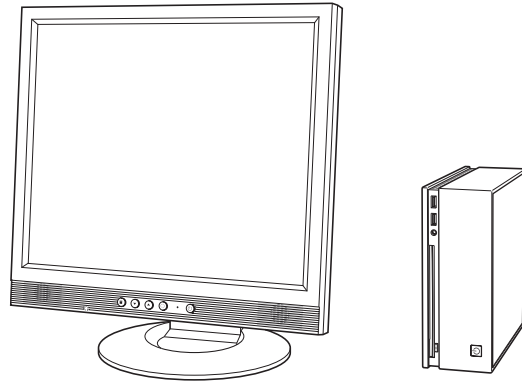
(3)



制限

本機の上に載せられるディスプレイの重さは 5.5kg までです。5.5kg より重いディスプレイは載せないでください。またディスプレイのスタンド部分が本機の上に収まらない場合やディスプレイが不安定になる場合は、ディスプレイを本機の上に載せないでください。

- 2** 本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。  
設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。



以降の各ケーブルを接続する手順は、本機を電源スイッチ側を下にして縦置きにした状態で説明しています。そのほかの設置方法の場合も、手順は同様です。

## ディスプレイを接続する

本機には、デジタル出力とアナログ出力の2つのコネクタが搭載されています。ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

### 3 使用するディスプレイがデジタル接続かアナログ接続かを確認し、ディスプレイのケーブルを本機背面の該当するコネクタに接続します。

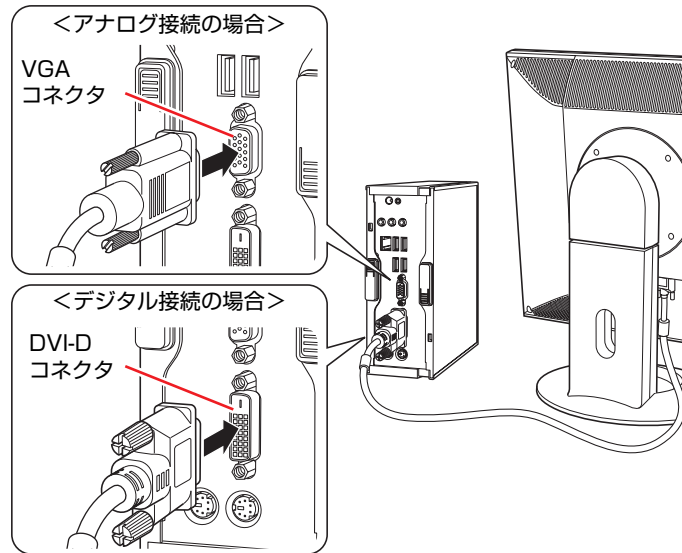
<アナログ接続の場合>

VGAケーブルをVGAコネクタに接続します。

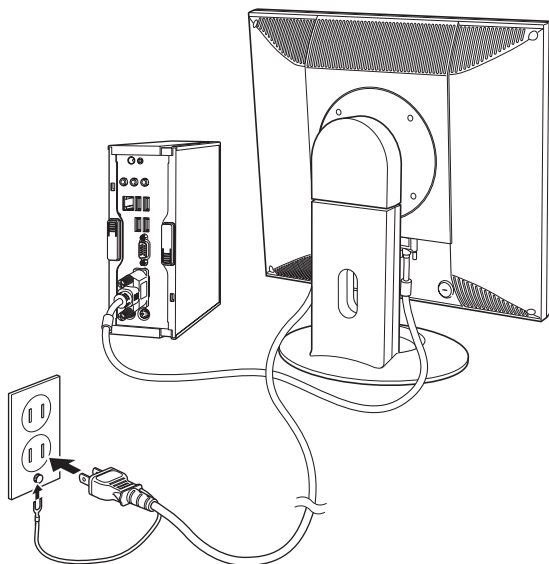
<デジタル接続の場合>

DVI-DケーブルをDVI-Dコネクタに接続します。

ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。



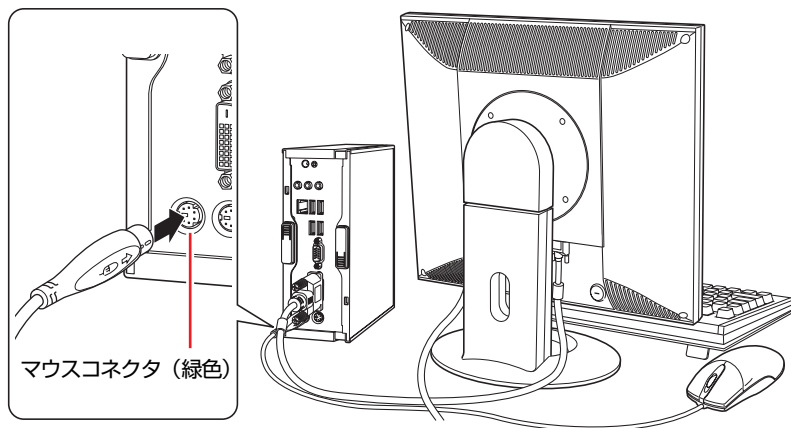
**4** ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



マウスを接続する

**5** マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタを本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。

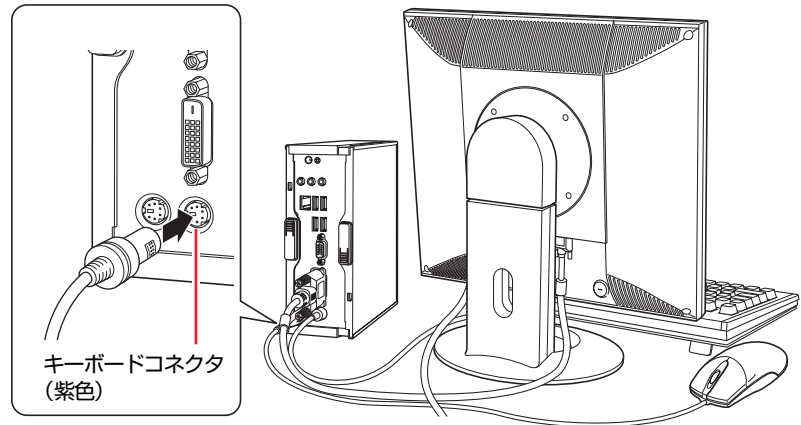




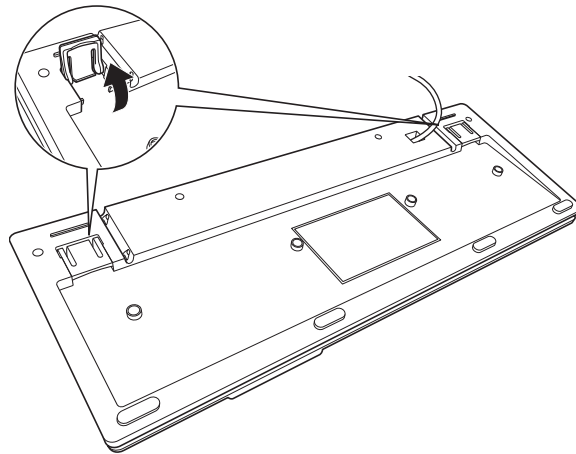
## キーボードを接続する

### 6 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。

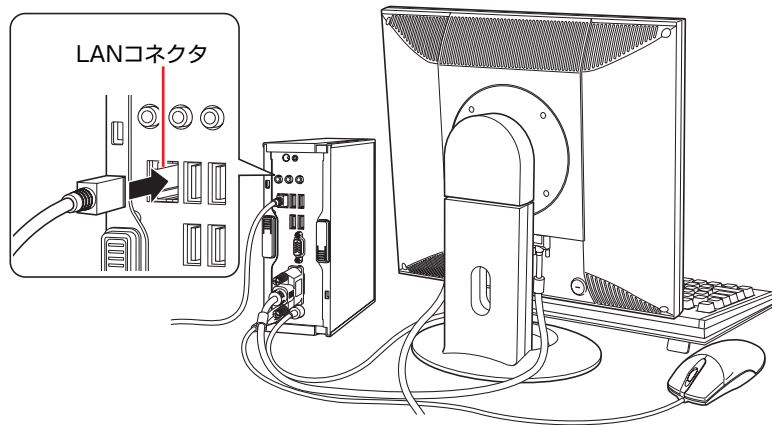


キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



## ネットワークへ接続する

- 7 市販のLANケーブルを使用してネットワークへ接続します。  
本機背面のLANコネクタ（品）にLANケーブルを接続してください。



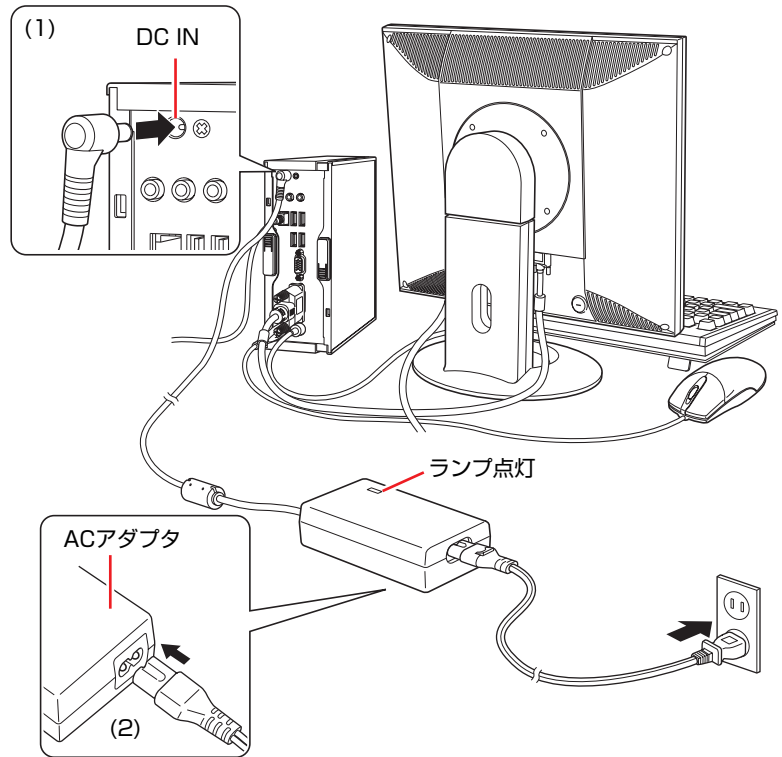
## ACアダプタを接続する

### 8 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ (DC IN) に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。



これで本機の設置は完了です。



# システムの拡張

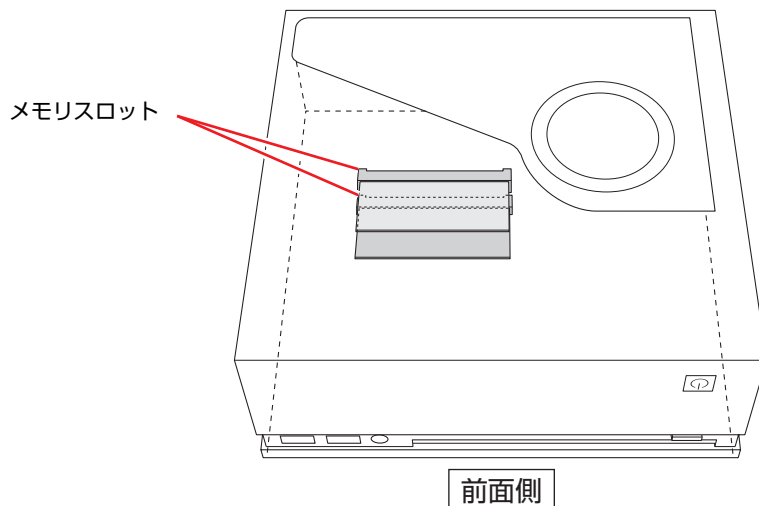
アップグレードサービスやメモリの増設方法について説明します。

# 拡張できる装置

本機は、メモリを交換して機能を拡張することができます。




メモリ以外の装置をご自身で交換することはできません。



## メモリスロット

本機には、メモリスロットが2本用意されています。

 p.26 「メモリの装着」

## アップグレードサービス

当社では、コンピュータ本体をお預かりして装置の交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ : 交換
- HDD : 交換
- 光ディスクドライブ : 交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

# 作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- メモリの交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリは落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

# 本体カバーの脱着

メモリを交換する場合は、本体カバーを外す必要があります。



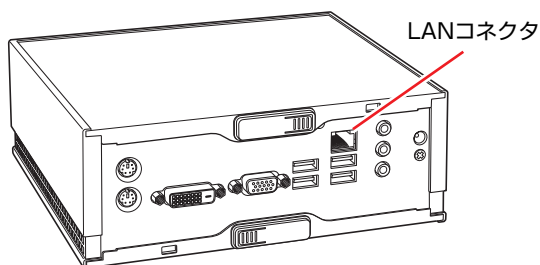
作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

## ▶本体カバーの取り外し・取り付け

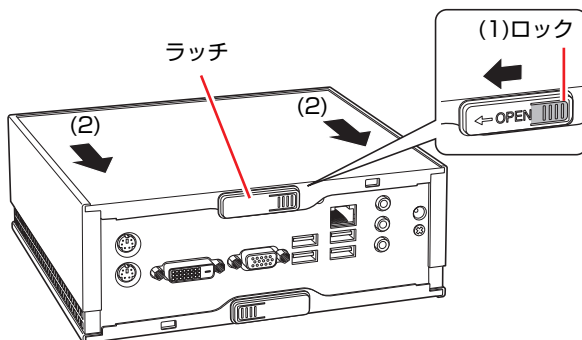
### 取り外し

本体カバーの取り外し方法は、次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 下図のとおり、コンピュータを横向きにして置きます。



- 4** 本体カバーを取り外します。
  - (1) ラッチのロックを少し押し込みながら、ラッチをOPENの矢印の方向にスライドさせます。
  - (2) 本体カバーを手前にスライドさせて引き抜きます。

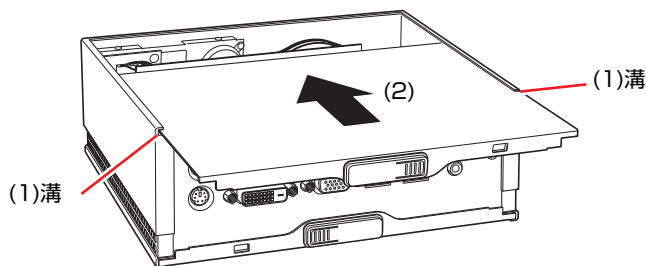




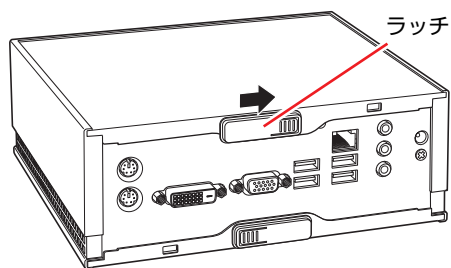
## 取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り付けます。
  - (1) 本体カバーを本体の両側面の溝にはめ込みます。
  - (2) 本体カバーを奥までスライドさせます。



- 2** ラッチをOPENと反対の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて本体カバーを固定します。



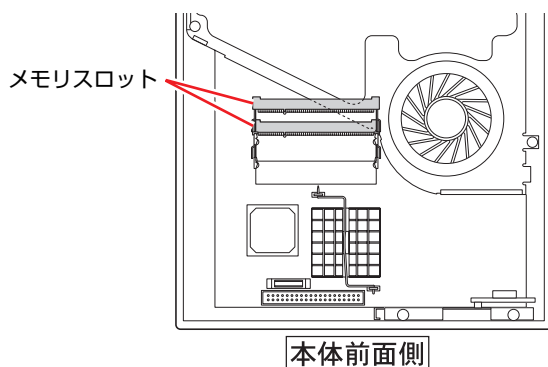
- 3** コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 4** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。  
これで本体カバーの取り付けは完了です。

# メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け方法について説明します。

## ▶メモリの仕様

本機底面にはメモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより拡張が可能です。



本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300 SODIMM (DDR2-667 SDRAM使用)
- メモリ容量 256MB、512MB、1GB
- Non ECC
- 200ピン
- CL=5

## 最新メモリ情報


今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。  
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。  
ホームページのアドレスは次のとおりです。


<http://shop.epson.jp/>

## メモリ装着の組み合わせ

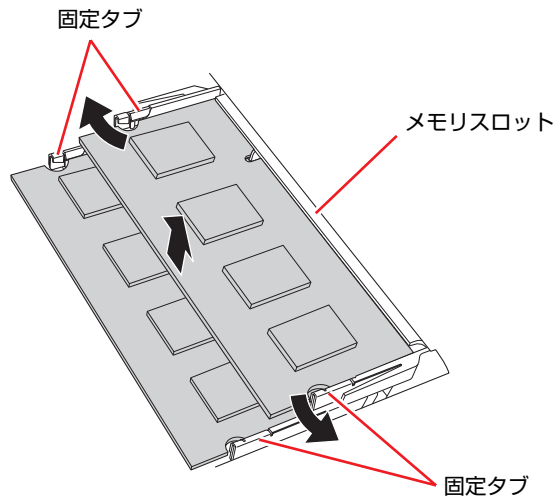
本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。

## ▶メモリの交換

作業を始める前に  p.23 「作業時の注意」を必ずお読みください。  
メモリの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** メモリスロットに装着されているメモリを、取り外します。  
メモリを2枚交換する場合は、上側のメモリスロットのメモリを取り外してから、下側のメモリスロットのメモリを取り外してください。

(1) メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。



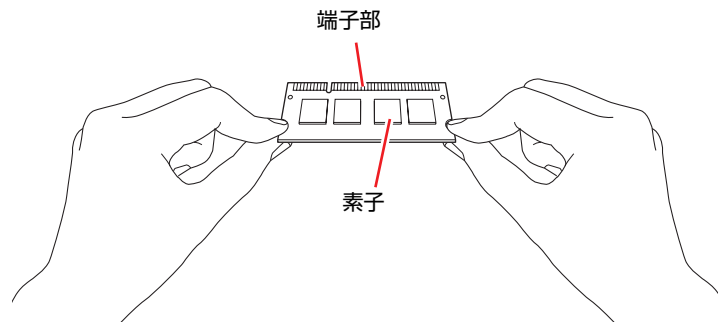
(2) 起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。  
取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

## 5 メモリを取り付けます。

メモリを2枚交換する場合は、下側のメモリスロットのメモリを取り付けてから、上側のメモリスロットのメモリを取り付けてください。

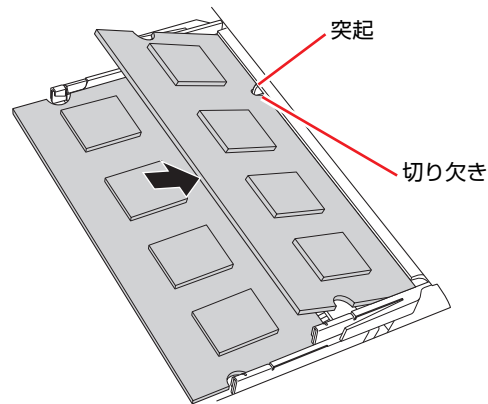
### (1) メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。



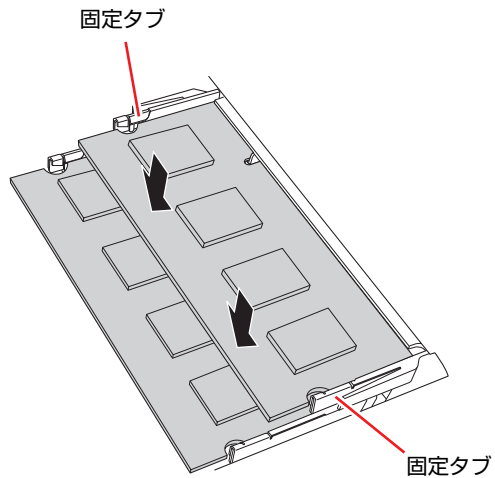
### (2) メモリを、メモリスロットに差し込みます。


切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。




**(3) メモリを静かに倒します。**

正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。

**6 本体カバーを取り付けます。**

 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

**7 コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。****8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。****9 コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。**

 p.30 「メモリの交換後の作業」


## ▶メモリの交換後の作業

---

メモ리를交換したら、메모리가正しく取り付けられているかどうか、必ず메모리의容量を確認します。


메모리容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を入れたら、**[Delete]**を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.33 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。

- 3 **[F10]**を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

 p.37 「BIOS Setupユーティリティの終了」

手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、메모리가正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、메모리를正しく取り付けなおしてください。



### 参考

#### メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとAMT機能用メモリとして使用します。そのため、BIOS上では、メインメモリから約40MBを引いたメモリ容量が表示されます。

※Windows Home ServerではAMT機能は使用しません。

---

# BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

# BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows Home Server が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にする場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

## リチウム電池の寿命



BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。



p.57 「リチウム電池の交換」

## 動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。  
万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。  
 p.44 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」
- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。  
 p.38 「設定値を元に戻す」



# BIOS Setupユーティリティの操作

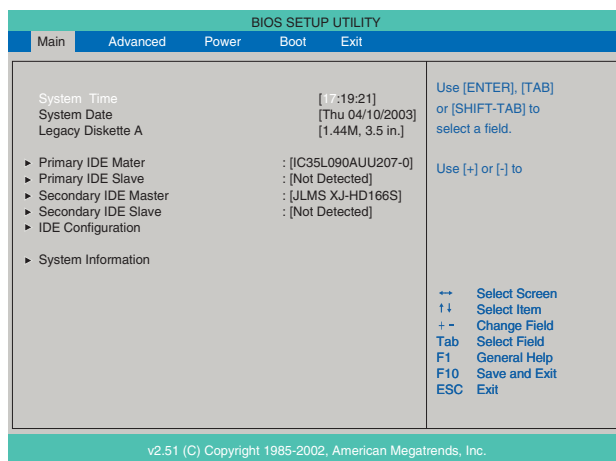
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

## ▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。  
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**  
すでにWindows Home Serverが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。**  
Windows Home Serverが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




<BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）>

## 仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP  
Press F2 to load default values and continue

このメッセージが表示されたら **F1** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

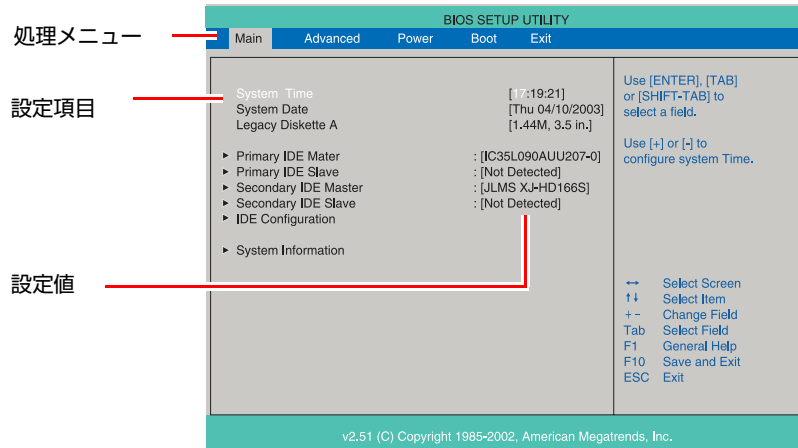
 p.37 「BIOS Setupユーティリティの終了」

## ▶ BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

### 画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。  
この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.44 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

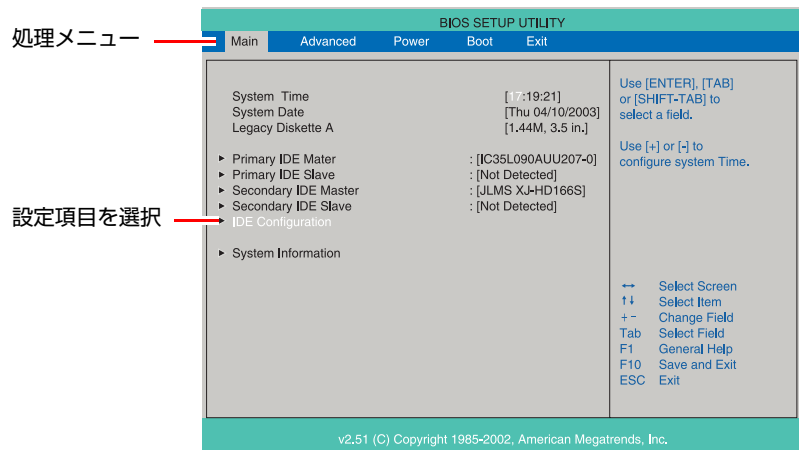
## 操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

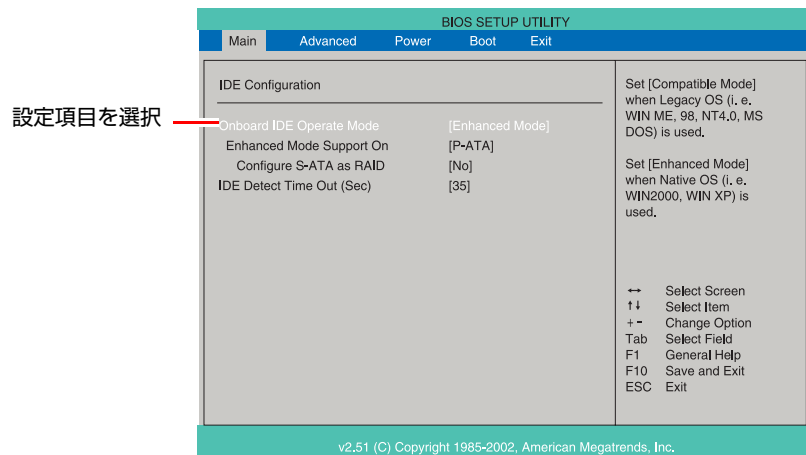


<メニュー画面>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、(↵)を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

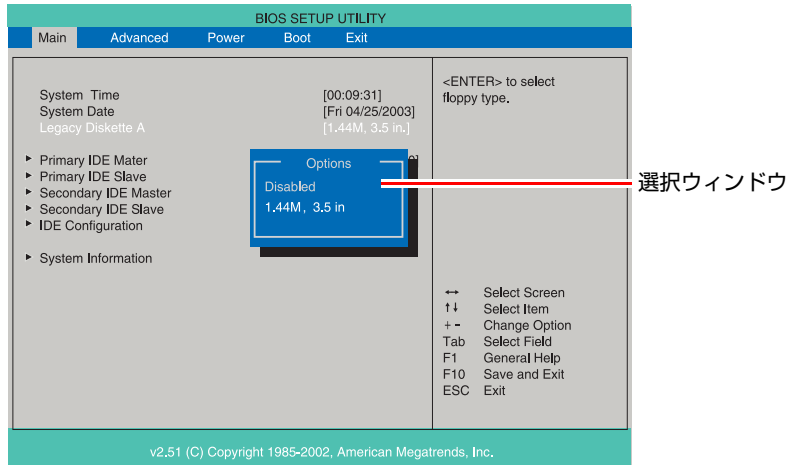


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには (Esc) を押します。

## 2 設定値を変更します。

⏏ を押して選択ウィンドウを表示し、⬆ ⬇ で値を選択し ⏏ で決定します。



## キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 変更した内容を破棄し、終了します。</li> <li>● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。</li> </ul>
⬆, ⬇	設定を変更する項目を選択します。
⬅, ➡	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
⏏	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。</li> <li>● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。</li> <li>● 設定値を選択します。</li> </ul>
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

## ▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

### Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [Ok] を選択し、**↵** を押します。

### Exit & Discard Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [Ok] を選択し、**↵** を押します。

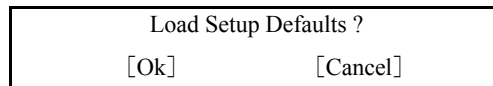
## ▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

### Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。


- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

#### Load Setup Defaults実行後の作業

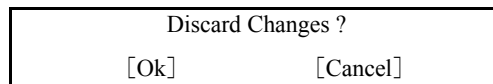
Load Setup Defaultsを実行したら、必ず「Main」メニュー画面－「IDE Configuration」－「ATA/IDE Configuration」を「Compatible」に設定してください。設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.37 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

### Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

## ▶パスワードを設定する


「Boot」メニューの「Security」画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindows Home Serverの起動時にパスワードを要求されるようになります。パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき  
(HDDアクセス制限など)

### パスワードの種類


パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)  
コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)  
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができません)。


 p.40 「ユーザーパスワードの権限設定」

### パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「\*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの太文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3** 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。

Confirm Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

- 4** 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。



制限


設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows Home Server の起動ができなくなります。

万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。


### ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.49 「Bootメニュー画面」－「Security」－「User Access Level」

### パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows Home Server起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。


 p.49 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Password Check」




## 管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されません。


- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.

[Ok]


- 3 「Ok」が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これで管理者パスワードが削除されました。

## ユーザーパスワードの削除方法


ユーザーパスワードだけを削除する方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?

[Ok]

[Cancel]

- 2 [Ok] が選択された状態で  を押します。

「User Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これでユーザーパスワードが削除されました。

## ▶HDDアクセス制限

---

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。


- BIOSやWindows Home Server起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難された場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。

### HDDアクセス制限の設定方法

HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

#### 1 管理者パスワードを設定します。

 p.39 「パスワードの設定方法」

#### 2 HDDアクセス制限の設定をします。

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

 p.49 「Bootメニュー画面」



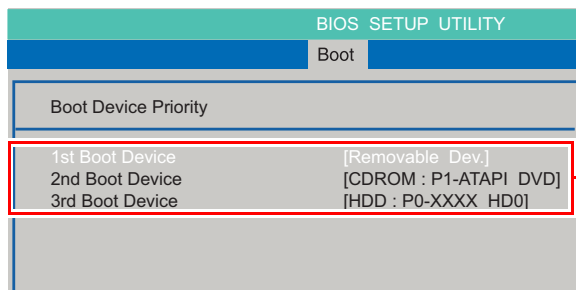
パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。

登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

## ▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステムから起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



この順番にデバイスを検出して起動します。

<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- HDD:XXXX（接続されているHDD）
- CDROM:XXXX（接続されている光ディスクドライブ）
- Removable Dev.:XXXX（USB FDDなど）
- Network:XXXX（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

# BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面  
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面  
CPUに関する設定、メインボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Powerメニュー画面  
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面  
システムの起動（Boot）やセキュリティに関する設定を行います。
- Exitメニュー画面  
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

## ▶ Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。  
設定項目は、次のとおりです。

\_\_\_は初期値

\*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定		時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Primary IDE Master Secondary IDE Master AHCI Port0  各ドライブの仕様を設定します。  ※表示される詳細項目は、選択するHDDや光ディスクドライブにより異なります。	* Device	ドライブの名称を表示します。
	* Vendor	ドライブの型番を表示します。
	* Size	HDDの容量を表示します。
	* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
	* Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	* PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
	* Async DMA	ドライブのDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	ドライブの転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	ドライブの仕様を設定します。初期値 [Auto] のまま使用します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的にドライブの仕様を設定します。
PIO Mode	ドライブの転送モード (PIO) を設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。	

	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/ MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5/ UDMA6
	SATA Port0	ドライブの仕様を設定します。初期値 [Auto] のまま使用 します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的にドライブの仕様を設定します。
	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
IDE Configuration	ATA/IDE Configuration	[Compatible] のまま使用します。
IDE装置の仕様を設定 します。	IDE Detect Time Out (Sec)	ATA/ATAPI装置検知のタイムアウトの値を設定します。 0/5/10/15/20/25/30/35
System Information 本機の仕様を表示 します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	CPUの情報を表示します。
	* Type	CPUのタイプを表示します。
	* Speed	CPUの周波数を表示します。
	* Count	CPUコアの数を表示します。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
* Usable Size	本機で使用可能なメモリ容量を、起動時に自動的に計算し て表示します。表示される容量は、搭載されたメモリ容量 から、あらかじめビデオメモリとAMT機能用に割り当てら れている容量 (約40MB) を引いた値です。 ※Windows Home ServerではAMT機能は使用しません。	

## ▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、メインボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

\_\_\_\_は初期値

\*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	*Manufacturer	メーカーを表示します。
	*Brand String	型番を表示します。
	*Frequency	周波数を表示します。
	*FSB Speed	バススピードを表示します。
	*Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
Onboard devices configuration メインボード上のデバイスに関する設定をします。	Intel (R) Virtualization tech.	Intel Virtualization Technology機能の設定をします。 Virtualization Technology機能を持つプロセッサが搭載されたモデルで表示されます。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
	Onboard Audio	メインボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard GBE LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	Onboard LAN boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。
	*Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	*USB Devices Enabled	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Functions	初期値 [Enabled] のまま使用します。
	USB 2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 Enabled : USB2.0の転送速度で使用します。 Disabled : USB1.1の転送速度で使用します。
	USB2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のまま使用します。

Intel AMT Configuration	Intel AMT Support	AMT機能を使用するかどうかを設定します。 <b>Disabled</b> : AMT機能を使用しません。 <b>Enabled</b> : AMT機能を使用します。
AMT機能の設定を します。  ※ Windows Home Serverでは使用 しません。	Unconfiguration AMT	「Intel AMT Support」を「Enabled」にし、「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。 ME BIOS Extensionの設定を初期化します。 <b>Disabled</b> : ME BIOS Extensionの設定を保存します。 <b>Enabled</b> : ME BIOS Extensionの設定を初期値に戻します。

## ▶Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。  
設定項目は、次のとおりです。

\_\_\_は初期値


\*は項目表示のみ

Suspend to RAM		スタンバイの設定をします。スタンバイが正常に動作しない場合は、「Disabled」に設定してみてください。 <b>Disabled</b> : ディスプレイなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 <b>Enabled</b> : メモリ以外の電源が切れます。消費電力はほとんどありません。
ACPI 2.0 Support		初期値 [ACPI v1.0] のままで使用します。
ACPI APIC support		初期値 [Enabled] のままで使用します。
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますので、ご注意ください。 <b>Power Off</b> : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 <b>Power On</b> : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 <b>Last State</b> : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
起動する方法や条件を設定します。	Wake up Key Select	コンピュータの起動や省電力状態からの復帰に使用するキーボード上のキーを設定します。USB接続のキーボードの場合、この機能は使用できません。 <b>POWER key</b> : Powerキー (⏻) を使用します (Powerキーのあるキーボードの場合)。 <b>TAB+ESC</b> : <b>Tab</b> + <b>Esc</b> を使用します。

	Power On by GBE LAN	<p>メインボードのネットワークからの信号により、起動するかを設定します。この機能は、Windows Home Serverを正常に終了した状態でのみ使用可能です。この機能を有効にしている場合、電源コードを抜き再び接続するとコンピュータが一瞬起動することがあります。これは不具合ではありません。</p> <p><b>Disabled</b> : 設定しません。  <b>Enabled</b> : 設定します。</p>
	Power On by RTC Alarm	<p>セットした日時に、自動的に起動するかどうかを設定します。</p> <p>この機能を有効にしている場合、電源コードを抜き再び接続するとコンピュータが一瞬起動することがあります。これは不具合ではありません。</p> <p><b>Disabled</b> : 設定しません。  <b>Enabled</b> : 設定します。</p>
	RTC Alarm Date (Days)	<p>「Power On by RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、設定可能になります。</p> <p>タイマーで起動する日にちを設定します。「Every Day」(毎日)を設定することもできます。</p>
	RTC Alarm Time	<p>「Power On by RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、設定可能になります。</p> <p>タイマーで起動する時間 (時 : 分 : 秒) を設定します。</p>





## ▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）やセキュリティに関する設定を行います。  
Bootの順番の変更方法については、 p.43 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

\_\_\_は初期値

\*は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は「Removable Dev.」（USB FDDなど）です。接続した記憶装置によっては、装置の型番が表示されます。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。（リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard devices configuration」の「Onboard LAN boot ROM」を「Enabled」に設定し、変更を保存して再起動します。）
Hard Disk Drives	1st Drive 2nd Drive	HDDを2台以上装着した場合にそれぞれの型番が表示されます。初期値のまま使用します。
	1st Drive 2nd Drive	外付けの記憶装置（USB FDD など）を2台以上接続した場合にのみ型番が表示され、優先順位を設定できます。
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	コンピュータ起動時にロゴを表示するかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
	Bootup Num-Lock	DOS起動時のNumLockの状態を設定します。 Off：NumLockが押されていない状態にします。 On：NumLockが押された状態にします。
Security システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Installed：パスワードが設定されています。 Not Installed：パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。

<p>User Access Level</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>「User Password」(ユーザーパスワード)で「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。</p> <p><b>No Access</b> :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。</p> <p><b>View Only</b> :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。</p> <p><b>Limited</b> :「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。</p> <p><b>Full Access</b> :ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOSセットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。</p>
<p>Change User Password</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Clear User Password</p> <p>※ユーザーパスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>ユーザーパスワードを削除します。を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Password Check</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。</p> <p><b>Setup</b> :「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p><b>Always</b> :「BIOS Setupユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。</p>
<p>Hard Disk Protection</p> <p>※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。</p>	<p>HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。</p> <p>有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。</p> <p><b>Disabled</b> :HDDへのアクセスを制限しません。</p> <p><b>Enabled</b> :HDDへのアクセスを制限します。</p>

※ TPMはWindows Home Serverでは動作しません。	Trusted Computing	TPM Security	セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。 Enabled : 使用します。
		Clear Security Chip	「TPM Security」を「Enabled」にして保存、終了すると次のBIOS起動時に表示されます。 セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、[Press Enter] を選択し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。再起動後、「TPM Security」は「Disabled」に設定されます。

## ▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

## ▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

### Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Intel (R) Virtualization tech.	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard devices configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard GBE LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Intel AMT Configuration	Intel AMT Support	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

### Power メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On Last State
	Wake up Key Select	POWER key	TAB + ESC		POWER key	TAB + ESC
	Power On by GBE LAN	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
	Power On by RTC Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled

## Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	( )	Disabled	( )	
	2nd Boot Device	Disabled	( )	Disabled	( )	
	3rd Boot Device	Disabled	( )	Disabled	( )	
	4th Boot Device	Disabled	( )	Disabled	( )	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On	
Security	Supervisor password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User Access Level <sup>*1</sup>	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access	
	Password Check <sup>*1</sup>	Setup	Always	Setup	Always	
	Trusted Computing	TPM Security	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hard Disk Protection <sup>*2</sup>		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

<sup>\*1</sup>管理者パスワードを設定すると表示されます。

<sup>\*2</sup>管理者パスワードを設定すると設定可能になります。



# 付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

# お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

## ▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

### 外装の汚れ

コンピュータ本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。

キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。



# リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

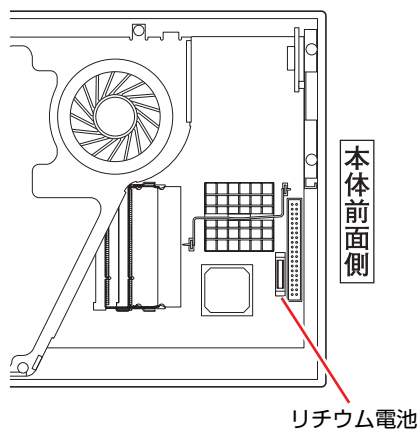


リチウム電池の交換を行うと、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。

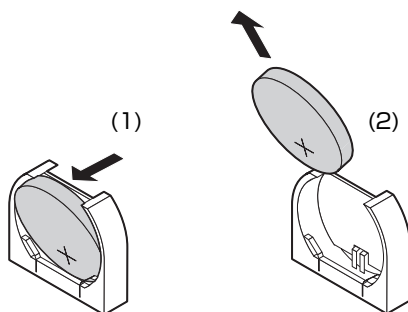
 p.52 「BIOS の設定値」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** リチウム電池の位置を確認します。  
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



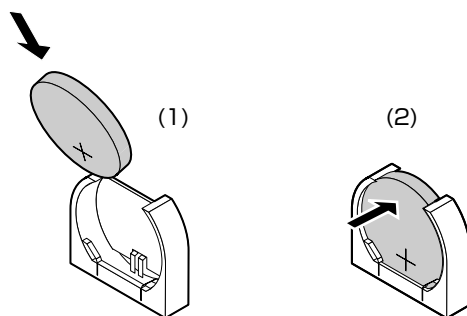
- 5** リチウム電池を抜きます。  
(1) 電池ホルダ側から電池の上部を押します。  
(2) 電池が外れたら、上へ引き抜きます。




**6** 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面（+側）が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

- (1) 電池ホルダに電池の下部を差し込みます。
- (2) 矢印の方向へ押し込んでしっかりと取り付けます。


**7** 本体カバーを取り付けます。

 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

**8** コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。**9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。**10** コンピュータの電源を入れます。

コンピュータの電源が一瞬入った後に、自動的に再起動します。

**11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press F1 to Run SETUP...」と表示されたら、**F1** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.33 「BIOS Setupユーティリティの操作」

**12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。

 p.38 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

**13** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。**14** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

# CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れていたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。  
 p.52 「BIOSの設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。  
 p.42 「HDDアクセス制限」

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。

- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** リチウム電池を取り外します。  
 p.57 「リチウム電池の交換」手順4、5
- 5** そのまま5秒以上、放置します。
- 6** リチウム電池を取り付けます。  
 p.57 「リチウム電池の交換」手順6
- 7** 本体カバーを取り付けます。  
 p.24 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 8** コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
- 10** コンピュータの電源を入れます。  
コンピュータの電源が一瞬入った後に、自動的に再起動します。
- 11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press F1 to Run SETUP...」と表示されたら、 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。  
 p.33 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。  
 p.38 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

# 警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処法
CPU temperature too high	CPU が高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU FAN rotating lower than 500rpm!!!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU over voltage error	CPU の電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

# 機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルCeleronプロセッサ
	ソケット	Socket 479
チップセット		モバイルインテルGM965 Express Chipset + ICH8M-E
BIOS		AMI BIOS
セキュリティ ティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2 ※TPMはWindows Home Serverでは動作しません。
	コントローラ	Infineon SLB9635TT
メインメモリ		PC2-5300 SODIMM (DDR2-667 SDRAM) を使用して最大2GBまで搭載可能
ビデオ	メモリ	メインメモリより最大96MBを使用
	コントローラ	チップセット内蔵
サウンドコントローラ		ハイデフィニションオーディオ対応 Realtek製 ALC262
記憶装置	HDD	1台内蔵 (S-ATA対応)
	光ディスクドライブ	1台内蔵または搭載なし (購入時の選択による)
インタ フェース	USB	6 : USB2.0 (前面×2、背面×4)
	LAN	1 : RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	前面側 : ヘッドフォン出力コネクタ×1 背面側 : ライン入力コネクタ×1、ライン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1 : アナログRGBミニD-SUB15ピン
		1 : デジタルDVI-D 24ピン
	キーボード	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
マウス	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン	
カレンダー時計内蔵		内蔵電池によりバックアップ
電源	ACアダプタ	入力AC100V~240V±10%*1、1.5A (50/60Hz)、出力19V、4.74A、90W 質量約450g (含電源コード)
温湿度条件		温度 : 10~35°C 湿度 : 20~80% (ただし、結露しないこと)
外形寸法 (縦置き時)		本体 : 約75 (幅) × 185 (奥行) × 195 (高さ) mm
質量		本体 : 約2.2kg 最小構成時
消費電力		110W (最大) / 3.5W (スタンバイ) / 2.3W (電源オフ時)

\*1 標準添付されている電源コードはAC100V用 (日本仕様) です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

## 使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

## 有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

## 国際エネルギースタープログラムについて



国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

## JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。



## パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

## Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、米国特許 (Nos. 5,315,448 and 6,836,549) および知的財産権により保護されています。Macrovision Corporationの認可なしに、この技術を使用することはできません。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

\*Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

## 著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

## ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 商標について

- Microsoft、Windows、Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intelロゴ、Celeron、Intel Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



**shop.epson.jp**

